

# みなみ

## 第5号

財団法人大牟田医療協会  
南大牟田病院・南大牟田クリニック  
大牟田市臼井町23番地の1・11番地の6  
(0944-57-2000・0944-57-3300)

平成21年11月7日に「第2回 財団法人大牟田医療協会 医療・介護研究会」を開催いたしました。

今回の発表は南大牟田クリニック、病棟では1病棟と3病棟、薬剤課、リハビリテーション科、介護事業では介護付有料老人ホーム、南大牟田居宅サービス支援センターが発表を行いました。

この研究発表会を開催するようになった背景には、当法人は病院、クリニックの診療部門以外に介護事業部門も増え、それぞれの部署や事業所間の相互理解を深め、また、互いに研鑽しあう職場作りを目標に、平成20年11月に第1回目の研究発表会を開催しました。

今号の「みなみ」は、その研究内容の一部を紹介したいと思います。

### ○ リハビリテーション科

研究内容：「作業療法とは」～考え方と活動の説明を通して～

作業療法の「作業」とは範囲が広く、単に手工芸や内職的なものではなく人が生まれてから死ぬまでに行う行動すべてをいいます。たとえば内職的な作業や手工芸はもちろん音楽、仕事、スポーツ、人と話すこと、食べること等の日常活動の諸動作、遊ぶこと、何かに触れること、歩くことなど、生活に関わること全てが、「作業」のひとつになります。そういう意味で、一般的な作業と作業療法の作業の意味することは違ってきます。

作業療法で大切にしているものは、治療効果のある作業を「やらせる」わけではなく、

- ① その人が意欲的に取り組めるような（興味・関心のある）活動
- ② その人の伸ばしたい部分（筋力、バランス、集中力、人との関わりかたなど）が含まれる活動

この二つを考慮し、生活するための動作・活動を練習します。そして集中して活動に取り組むことで、心身ともに種々の効果が得られ、その積み重ねが生活の良い結果につながっていく。そういった「作業への取り組み方」を大切な考え方としています。

#### ■作業療法の実際くお手玉を使った活動>

お手玉は特に女性において幼少時に経験する方が多く、また、それを使った活動には、様々な使い方があり（箱の中に投げる、片手で投げ上げつかむ等）、作業療法に導入しやすく、院内でも訓練の際によく活用することから今回はお手玉を用いた活動を例に説明したいと思います。

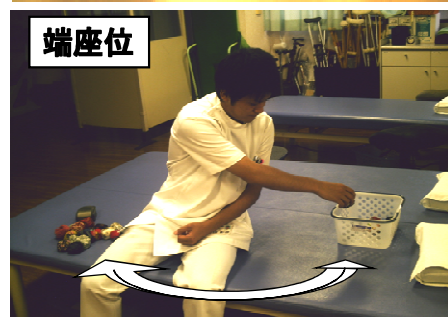
#### (1) テーブルで行う場合

テーブル上にお手玉を入れる籠を置き、上肢を挙上し肘を伸ばしお手玉をつかみます。その後、お手玉を籠まで運び離します。この籠にお手玉をつかみ、持ち上げ、運び、離すという動作を繰り返し行うことで、肩・肘と手指の働きによる物品操作や視覚機能が先行し上肢を誘導する目と手の協調性の改善につながる動作を学習できます。また、把持することで物体の性質、表面の素材、重量感など感覚の再教育を行うことで把持力のコントロールを学習させます。



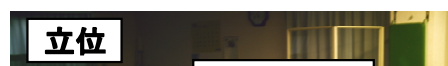
#### (2) 端座位で行う場合

ベッドなどに端座位をとり、お手玉を入れる籠を前方や左右の離れた場所へ置きます。その籠に手を伸ばしお手玉を入れる動作を行います。この動作を行うことで重心移動を促し座位バランスの向上を図ります。また、前方への動作は立ち上がり動作の促しなどにも使用します。さらに、体の右もしくは左に籠を置きお手玉を「右から左へ」「左から右へ」移動させることで体幹の回旋を促し体幹の筋力向上を図ります。



#### (3) 立位で行う場合

立位で離れた場所においた籠にお手玉を投げ入れる動作を行い

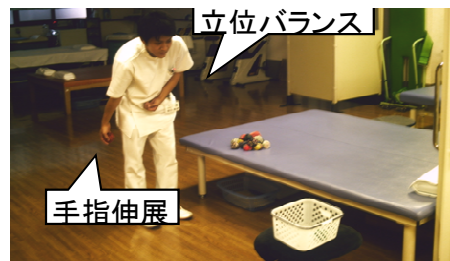


ます。この動作により立位バランスや下肢の支持性の向上を図ります。また、物を投げる動作は肩の支持性に加え手指のスピードを伴った伸展が必要であるため、肩や肘、手指の訓練にも使用します。

#### (4) 高次脳機能

左側に存在するものや刺激などに気付かない左半側空間無視がある場合は、テーブルにお手玉を一行に並べ、右から左へ順にお手玉を籠に移動してもらいます。この動作を行うことで、患者さんの左側に注意が向くように促します。また、上肢が認識できない身体失認がある場合は患側でお手玉を移動してもらうことで患側上肢を認識してもらいます。

私たち作業療法士は、各々の患者さんの心身の状態を見極め、その人が人間らしく生きていくために何が必要なのか、そのためにはどんな能力が必要なのかを考え、適合する作業活動を用いて、楽しく熱中することで身体・精神機能面の向上に繋がるように努力したいと思います。



それ以外の発表として、近年、公共機関や教育機関、医療機関などでは禁煙、分煙化が進み、平成18年からは禁煙治療が保険診療として認められるようになりました。当クリニックでも平成19年5月から禁煙外来を開始しました。これをきっかけに、クリニックでは職員の喫煙状況を把握するためにアンケート調査を開始しました。今回は第2回目となるアンケート調査結果について報告を行いました。また、3病棟は誤嚥性肺炎の予防、意欲の向上、食欲増進や脳の活性化等を目的に全病棟で実施している口腔ケアを原点から見つめ直す観点から、現在、口腔ケアに使用している1%イソジン液の他に、白湯、お茶を使用した場合の口腔ケアが患者さんの身体にどのような効果をもたらすのかについて発表しました。

介護事業部門では、介護付有料老人ホームの入居者さんが食欲不振で入院されていましたが、家族から「家庭的な環境に変わると食事ははいるかもしれない。リスクは覚悟の上で退院させて憩の郷で生活させたい」との要望があり、退院を機に医療面、介護面、精神面を在宅担当医・訪問看護師・家族そして施設職員がそれぞれを担当・連携しながら行った支援内容と成果について発表を行いました。また、南大牟田居宅サービス支援センターではケアマネージャーである自分たちが利用者に満足されているのかどうか再認識するために、ケアプランの説明や内容、介護サービス、言葉遣いの丁寧さ、介護保険制度の説明などについてアンケート調査を行った結果について報告を行いました。それ以外の部門からの発表もありましたが、紙面の都合上、割愛させていただきます。

今後も研究発表会の内容については、引き続き紹介していこうと考えていますので、楽しみにしていただければ幸いです。

#### 地域交流施設「サロン・すいせん」 催しのご案内

- 1月20日(水) 13:40~14:40  
健康教室: 「リハビリ体操」
- 2月17日(水) 15:00~16:00  
健康教室: 「薬物乱用について」
- 3月24日(水) 15:00~16:00  
健康教室: 「リハビリ体操」

#### 編集後記

あけまして おめでとうございます  
今年も法人の取組みや医療・介護関連の情報を掲載して行きたいと思っておりますので、引き続き、ご一読いただければ幸いです。  
今年も宜しくお願い申し上げます。



広報担当: 平山 和也